

【171】

氏名	田 辺 善 丸 た なべ よし まる
学位の種類	医 学 博 士
学位記番号	論 医 博 第 186 号
学位授与の日付	昭 和 40 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	リンパ組織の分布—とくに脂肪組織内分布について
論文調査委員	(主 査) 教 授 堀井五十雄 教 授 西村秀雄 教 授 岡本道雄

論 文 内 容 の 要 旨

著者はヒト、ウサギについて、そのリンパ中心部および非リンパ中心部におけるリンパ組織の分布を精査した結果、つぎのような新事実を証明することができた。

ヒト、ウサギいずれでも、リンパ中心部の脂肪組織には既知の触視可能のいわゆる Hauptknoten の他に、mikroskopisch の accesorisches Knoten を含む種々のリンパ組織が恒存していることが判った。これに反して非リンパ中心部では周腎組織を除いてリンパ組織の出現はまれなもので、その種類もリンパ小節とリンパ浸潤に限る。

ヒト、ウサギのリンパ中心部脂肪組織内に現われる mikroskopisch のリンパ組織の種類は、小型リンパ節、リンパ小節、リンパ浸潤の3種からなっているが、ヒトではこのうち小型リンパ節が主体で、ウサギではこれに反してリンパ浸潤が主体である。

リンパ中心部脂肪組織に現われる小型リンパ節については、ウサギではその全部が未分化リンパ節であるのに対して、ヒトでは90%が未分化リンパ節で、分化リンパ節は10%を占めている。

リンパ中心部に現われるリンパ組織の数はリンパ中心部の部位差によって相当ないしは若干の相違があるが、ヒトとウサギではその態度が多少異なっている。ヒトでは腋窩が最も多く、他のリンパ中心部間には大差がないが、ウサギでは腸間膜根部が圧倒的に多く、ついで腋窩で、他のリンパ中心部は出現度が低い。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

脂肪組織、とくにリンパ中心部の脂肪組織内に既知の可触性、肉眼的なリンパ節のほかに多数の顕微鏡的なリンパ組織の存在することは、つとに堀井およびその共同研究者の指摘してきたところであるが、著者はヒト、ウサギについて広汎かつ系統的な観察を行なって、実用的にも、比較解剖学的にもきわめて興味あるつぎのような知見をもたらした。

ヒトでもウサギでもリンパ中心部脂肪組織内には既知の Hauptknoten のほかに, mikroskopisch, accessorische Knoten, リンパ小節, リンパ浸潤が多数恒存するのに対して, 非中心部ではわずかに周腎組織に小数のリンパ小節や浸潤の出現をみる以外は他部には出現しない。これら中心部脂肪組織内リンパ組織の主体はヒトでは小型リンパ節で, ウサギではリンパ浸潤である。またウサギでは小型リンパ節の全部が未分化のものであるのに対し, ヒトでは未分化90%, 分化10%である。リンパ中心部には小型リンパ組織の現われる数量について部位差があるが, ヒトでは腋窩がもっとも多く他の部の間には大差がない。ウサギでは腸間膜根部が圧倒的に多く, ついで腋窩で, 他のリンパ中心部は出現度が低い。このようにリンパ中心部脂肪組織内出現リンパ組織の間にも比較解剖学的な分化度の差がはっきりとみられることを実証した。

このように本研究は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。